

天地

ネットワーク テーブル 434号

発行：天地シニアネットワーク／2016・10・14

「目 次」

TENTI・TODAY			1
会員の広場 「『奈良好き』に全く同感」「満蒙開拓平和記念館」を読んで			2
連載作品			3
隨 想	天のわざ、地のほまれー地球を測れ、宇宙をはかれー 11. ガリレイー 天のみ業、地の権威	伊那 開歩	3
旅行記	そうだ京へ行こう・古刹の花物語（9） <東山山麓1, 将軍塚>	大竹 漢洲	7
講演会	「奈良興福寺文化講座」「新三木会」「すどう美術館」		9
事務局			10

TENTI TODAY

神戸の大手給湯器メーカーの敏腕営業マンだった深山さん、今はJR根岸線・本郷台駅前の居酒屋のオーナー兼店主。高校、大学と硬式野球部の選手として活躍したので知己が多く、お客様の扱いがうまいので中々繁盛している様子。数日前、その深山さんから「お仲間のNさんが、クモ膜下出血で入院しているそうですよ、ただ、頭痛が酷くなつて直ぐに病院に行ったので、助かったようです」との電話がありビックリしました。

Nさんは、大学時代のゼミの仲間、つい3週間ほど前に「プロポリスを欲しいと家内が言うので・・・」と天地事務所に寄ったばかりなのです。ゴルフをまだやっていると聞き、いたって健康に見えましたが・・・。

順調に回復しているようなので安心ですが、病魔は同居していると教えられました。緊急の場合どうするか、家族とよく相談しておく必要があると、改めて感じました。

「天地ネットワークテーブル」の「天地」の文字は、小学校時代の担任だった先生にお願いして書いてもらったものです。奥様に先立たれ、一人で頑張っていらっしゃるので、先日、クラス会を開いて<卒寿>のお祝いをしたいと申し出たところ、「まだ卒業しないよ」と叱られました。生徒は来年<傘寿>を迎えるので、一緒にと思っていましたが、話を出すのをやめることにしました。

車中のアナウンスに“はい”“はい”と返事をするご老人がいて、苦笑しましたが、反対側に座った女性の視線がきついので、如何かと思って下車、気が付くと<社会の窓>が開いていました。反省しました。

学生のリーグ戦が終了し、4年生はこれでお終いと寂しそうな顔をしていましたが、もっと寂しい思いをしているのは、超OB。また毎日が日曜日となり、生活の張りがなくなる、来年のシーズンが始まるまで、耐え抜くよう申し合わせました。

会員の広場

いつも楽しく読ませていただき、大変感謝しています。ありがとうございます。432号の『奈良好き』に全く同感して、一文。

気分は、どうしても京都と比べてしまいますが、何よりも『商売氣』が京都に比べて少ないのが心地よいですね。こっちは坊さんの料亭通い俗社会好きが少ないのでしょうか。単純に言えば、拝観料が安い、取らないところさえあります。神社はもともと、拝観料を取る仕組みが無いところさえ多い。

歴史があるのに嵩高ではない、元興寺など好きですね。周囲の佇まいもいい。昨今は奈良ホテルがJR資本の傘下に入って、安く泊まれるのはいいですが、あのレストランのメニューでは、“見学客”以外は納得しないでしょう。5分ほど歩いた居酒屋で良い夕食の店発見しました。

飛鳥へ足を延ばすと大神神社の門前駅・三輪駅近くの「大正楼」。古風な料亭旅館で味わいがありました。山の辺の道、古墳巡りの散策拠点に良い立地です。去年、高校の同期生10人後期高齢者仲間でも行ってきました。

話は一転しますが、

『満蒙開拓移民団』阿智村記念館は先月に行ったら『休館日』。出直します。長野県、特に飯田盆地周辺地域の犠牲者の悲劇は、モノを読めば読むほど従順な住民の、その後の境遇に胸が痛みますが、最近『還らざる夏』(幻戯書房刊)を読んで、一層その感を強くしました。筆者は元NHKのディレクター・福岡放送局長でNHKスペシャル「満蒙開拓団の悲劇」を世に出した人。当時の村役場の動員記録などを丹念に掘り起こし、嫌がる住民を強制割当てのようにして送りだした綿密な記録が載っています。

これを読んで、阿智村に行かずばなるまいと思った次第です。

9月初めに北海道に12日間旅してきました。一日も雨が降らない日がなかつた異常気象で、道中の景色を楽しむどころか、予定した宿泊先に到着するのが気掛かりな日々でした。その内ご都合を伺ってお邪魔したく思っています。

寺島 昭彦

天地9月号「奈良小旅行」、私も奈良が好きなので楽しく読みました。今回、室生寺のあの石段を登られたとのこと、私も20年位前に女人高野詣で登り大変でしたがそれだけの価値がありました。もう一度思っているうちに時が過ぎてしまいました。その折は、大野寺、大磨崖から室生寺まで行きました。台風で杉の木が倒れてきた五重塔は、如何がなりましたか？龍穴のあたりも良かったです。

山辺の道、私も少し歩いたことがあり懐かしく思いました。桜井の出雲で

相撲発祥の縁で出雲力士人形を求めました。

<桜井から初瀬川を渡って海柘榴市から平等寺、大神神社、大和三山の見える展望台、玄賓庵・長岳寺><談山神社から崇峻天皇陵・安部文殊院>と若いから良く歩いたものです。84歳の今は、都内の街中を歩くのがやっとです。

高畠付近も志賀直哉旧居、新薬師寺、白毫寺と歩きましたが（五色椿のころ）、おそば屋さんは知りませんでした。奈良のホテルフジタは泊まつたことがありませんが、京都はホテルフジタが大好きで朝食後の鴨川べりの散歩を毎回楽しんでいましたが、数年前閉業になり、残念に思っています。

ではまた天地を楽しみに。 大原成子

ご無沙汰しております。お元気に励んでおられるようで何よりです。天地シニアネットワークは毎号読ませていただいております。こんどの津田さんが書かれた「満蒙開拓平和記念館」を読んで、中国人にも知ってほしいと思い、その資料が手に入るかどうか、そちらにお願いする次第です。

11月にお会いすることを高崎さんから聞いております。そのときにいただければありがたいのですが、勝手なお願いで申し訳ありません。

俞 彭 年

連載作品

天のわざ、地のほまれ
— 地球を測れ、宇宙をはかれ —

伊那 閣歩

11. ガリレイー 天のみ業、地の権威

夜が白みはじめた。サンタ・マリア・デル・フィオーレ（花の聖マリア）大聖堂に隣接するジョットの鐘楼の鐘が、まもなく朝6時を告げて華やかに心地よい音を聞かせてくれるであろう。晴れた暁の夜空から、星影が薄れてゆく。望遠鏡の狭い視野の中には三日月が捉えられていた…いや違った！それは明けの明星—金星であった。月の表面には、山あり谷あり、海ではないかと思える広大な平らな部分があり、無数のクレーターが見られた。今ガリレオが捉えたアプロディーテ（金星、ヴィーナス）は鋭い切っ先を持つ鎌の形こそ三日月そっくりであるが、その表面は白くまぶしい光を放つばかりで、何の模様も見られない。

望遠鏡を通して観た天界は、ガリレオ・ガリレイ（1564-1642）に大きな興奮と驚きを与え続けた。そしてまたこのたび、金星が満ち欠けすることを教えてくれたのだ。金星は自分自身で光っているのではなく、あきらかに太陽の光を反射して光っている。その満ち欠けの様子から、金星も球体であることがわかる。さらに、金星は欠けている時に大きく、光満ちているときには小さく見える。金星は太陽より手前（地球側）にあるとして、いつも太陽の

近くにいるのだから、地球から眺めて金星の光が満月のように満ちることはないはずだ。

光満ちるのは、金星が太陽の向こう側に行くことがあるから、つまり、金星は太陽の周りを回っているからなのだ。これは、プトレマイオスの地球中心説によっては説明できないことではないか。ヨハネス・ケプラー（1571-1630）の共同研究者（助手？）であったデンマークの天文学者ティコ・ブラーエ（1546-1601）は、天動説から脱しきれてはいなかつたが、水星と金星は太陽の周りを公転しており、それらがまとまって地球のまわりを回っているという、プトレマイオスよりは若干進化した独自のシステムを提唱していた。

木星は4つの衛星（イオ、エウロパ、ガニメデ、カリスト）をひきつれ、12年かけて太陽の周りを回っている、地球も衛星（月）をひとつつれて1年かけて太陽の周りを回っている—こう考える方がよっぽど自然ではないか。地球だけが神に選ばれた特別な星ではないのだ。

これらのこととガリレオはパドヴァ大学時代にまとめて著書『星界の報告』（邦訳：山田慶児、谷泰、岩波文庫）として出版していた。そこには、はじめから太陽が宇宙の中心であることがはっきりと書かれている。そして、フィレンツェに移って来て、この金星についての発見により、ますます太陽を中心としてすべての惑星が回っていること（太陽中心説）を強く確信したのであろう。

1611年、ガリレオは望遠鏡を携えて勇躍ローマにのり込んだ。当時、ローマには、ローマ学院やサピエンツア大学など教皇庁直属の高等教育機関があり、イタリアの学問の中心であった。ローマ学院の教師やイエズス会の僧侶たちは、おおむね好意的であり、ガリレオの話を熱心に聞き、望遠鏡を覗いて驚嘆したという。しかしながら、ガリレオの評判が高まるにつれ、やがて教皇庁は危機感をつのらせていったのだ。そもそも、ガリレオの説くことは、コペルニクスの地動説を支持することであり、聖書の記述に反することではないか。コペルニクスの著書は禁書になっているのであるから、この説を大学で学生たちに、おおっぴらに教えることはご法度である。

ガリレオがなにも知らないうちに、ローマ教皇庁で宗教裁判が進行していたのだ。検察官（異端審問官）の僧侶たちは、天動説と地動説のどちらが正しいかということを審議する能力はない。かれらの天文学にかんする知識は絶望的にまずしく、科学の土俵で戦えるほどの素養はなかった。かれらはガリレオの地動説によって、カトリックの3つの権威、つまり“聖書の権威”

“聖書の注釈者の権威”そして“カトリックの教義の権威”が脅かされ、延いては歴代教皇、聖トマス・アクィナス、アリストテレスの権威（地の権威）が貶められるのではないかとひたすら怖れたのである（田中一郎『ガリレオ裁判』岩波新書による）。なお、聖書のなかの天文学や自然科学にかんする記述ほど貧弱なものはない。旧約聖書『ヨブ記』には、この世界は大きな柱によって支えられた大地の上にあるという超古代の神話的世界観が記されている。

一方、ガリレオは“聖書”は聖霊の助けによって、ひとが（靈感をうけて）書いたものであるが、もうひとつの神の教科書つまり“自然”は神の意志が具体的に表現されたもの（天のみ業）なので、両者の間に矛盾などあろうはずがない、と信じていたのだ。ガリレオももちろん敬虔なカトリック信者な

のである。はじめのうちは教皇ともかなり友好的な関係を保っていたらしい。

かれが地動説の決定打になるとと思っていたものが、もうひとつあった。それは海洋の潮汐現象である。海の干満がなぜ起こるのか？当時はまだ謎のままであったが、ガリレオはこの現象こそ、地球が自転しながら太陽のまわりを公転していることの確実な証拠であると考えた。アドリア海を大型の船で航行していたとき、船の甲板に大きな水槽があり、かれはその中の水が揺れているのを見ていた。水は船が加速するとき水槽の後方でもりあがり、船が減速するときには水槽の前方でもりあがる。これだ！かれは、天啓を得たと思ったのではあるまいか。つまり、アドリア海を巨大な水槽にみたてる。そして、その水槽に地球の公転速度と自転速度が重なって同じ方向（東方）に働くときには加速されることになる。この時、ヴェネツィアでは満潮になり、アドリア海東岸のトリエステあたりが干潮になる。ここまで良かつた。12時間後、自転速度は公転速度とは逆に向くので、アドリア海は減速されることになる。その結果ヴェネツィアからは海水が引きトリエステあたりには海水が押し寄せて満潮になるはずだ。こうしてガリレオの理論によれば、海は24時間周期で干満をくりかえすことになる。ところが現実には、12時間ごとに満潮になるので、ガリレオの潮汐理論はここで破綻するが、細かいことはさておき地球が不動であれば、自然に干満現象が起こるわけではないのではないか（天文対話下、pp.192）というのがガリレオの潮汐論なのだ。

海の干満の原因は、月（と太陽）の引力にあるということは、今でこそよく知られているが、ガリレオはまだ、万有引力については何も知らない。ガリレオの理論はまったくの見当はずれであった。万有引力を知らずして、潮汐を論ずることはできないのだ。しかしながら、ガリレオは、かれの潮汐理論に固執し、結果としてかれの地動説には十分な説得力が得られなかつたと思われる。

1616年2月、ガリレオは突然、検邪聖省に召喚され教皇からの訓告を与えられたのである。いわく「ガリレオは、太陽は世界の中心にあって動かず、地球は動いて日周運動さえすると述べているが、これらの意見は異端であり誤りである」そして以後「この説を全面的に放棄すること、人に教えてもならぬ」。

この禁止命令にガリレオは同意し、従うことと約束した、との記録が残っているという。しかしながら、ガリレオがこの訓告に従っていたとは思えない。

かれは地動説を放棄するどころか、ますますかれの考えを深めていったのだ。

1632年、ガリレオは、長年にわたる天体観測や自然現象の観察をもとに、かれの思索の結果をまとめ、『ピサ大学特別數学者、トスカナ大公付き哲學者兼主席數学者、リンシェイ・アカデミー会員、ガリレオ・ガリレイの対話、そこでは4日間の会合においてプトレマイオスとコペルニクスとの2大世界体系について論じられる』というもののしく冗長なタイトルをつけた大作をフィレンツェの書店から出版した。邦訳のタイトルは、そっけなく『天文対話』（青木靖三訳、岩波文庫、現在絶版）としてよく知られている。

ガリレオの意見を代弁する“サルヴィアチ”、アリストテレスとプトレマイオスを信奉する“シンプリチオ”、そして両者の緩衝役として中立の立場

に立つ“サグレド”ら3人の鼎談形式で4日間にわたり対話がなされるのである。第1日はアリストテレスの哲学について、第2日は地上での運動について、第3日はコペルニクスの地動説、金星の満ち欠け木星の衛星の運動について、第4日はガリレオの18番（おはこ）潮汐理論について議論が戦わされるのだ。

この著書には、この世の神羅万象を究明し尽くしたいとの強いおもいがこめられていて、ガリレオの壮大な『宇宙論』が展開されている。はじめ『潮汐理論』としてローマにもちこまれたためか、教皇庁でも受け入れられて、難解であったこともあり、あまり読まれなかつたようである。しかし、徐々にその内容が地動説（太陽中心説）の論述であることがわかり、アリストテレス哲学を批判し、あからさまではないにせよ教皇をからかっていると思える箇所が随所にみられるとの報告により、教皇はガリレオにたいする不快感をつのらせていったようだ。地球が不動であることは昔から自明なこと、地球が動いて教皇の玉座が宙に舞うなどという滑稽なことが起こり得ようか！ガリレオを支持していた枢機卿や神学者たちが、教皇庁内の勢力争いによって左遷されたということも、ガリレオにとって不幸な出来事であった。

1633年2月、ガリレオは検邪聖省によりローマの異端審問所に召喚された。裁判は同年4月にはじまつたが、ガリレオは異端の罪をみとめなかつたのだ。ガリレオは楽観的であったようだが、もし異端をみとめてしまえば、告解によって簡単に罪を赦されるともかぎらない。1600年には、ドミニコ会の修道士ジョルダーノ・ブルーノが、宇宙空間は無限大であると言い広めたこととコペルニクスの地動説を支持し流布させたとの廉により、ローマの“花の広場”で火刑に処せられたのだ。火あぶりにされることはないとしても、死に際してカトリック教徒として葬られないしたら、それほど不名誉なことはない。

ガリレオにたいする僧侶たちの説得が続けられた。5月に開かれた第3回審問においては、ガリレオの釈明のすべてが無視され、満場一致でガリレオの投獄と『天文対話』の出版停止（禁書）処分が決定されたのだ。そして、6月に開かれた“最終供述”においてガリレオは「コペルニクスの地動説が真実であると考えたことはない」と心にもないことを繰り返しのべるのである。

宗教界からの強い圧力に対抗し、自己の信念を曲げることなく、ひとり敢然とカトリック教会と戦ったと伝説に言うガリレオの姿をここに見ることはできない。逆に、かれのいかにも無節操で軟弱な態度に失望させられるが、これがかれ流の作戦であったともいわれている。やはり、かれはカトリックから破門されることだけは避けたかったのだ。かれの供述には変遷があるが一度たりとも“異端の罪を犯した”とのべてはいない（上記『ガリレオ裁判』による）。

1633年6月、裁判は結審し判決文が読み上げられた。それには「1616年に与えられた禁止命令に対する明らかな違反により有罪であることと『天文対話』を公の布告によって禁止すること」が宣告されたのである。6月22日、ガリレオは、異端誓絶書に署名した。翌日、投獄されるところ減刑され、メディチ家の別邸に軟禁されることとなつた。半年後、ガリレオはフィレンツ

エーアルチェトリの自宅に戻ること（軟禁）を許された。

天体観測、特に長期間にわたる太陽の黒点観測のせいか、ガリレオは眼を患い、視力が衰えていくなかで、1638年、最後の労作『新科学対話』（今野武雄、日田節次訳、岩波文庫）を書き上げたのである。さすがにコペルニクスに言及することではなく、メインテーマは力学、機械学であった。そこには、もっぱら地上の物体の運動についての研究成果が記述されている。最晩年のガリレオは、視力を完全に失い、アルチェトリにこもって思索のうちに時を過ごし、1642年1月、波乱に満ちた79歳の生涯を閉じたのである。

＜そうだ京へ行こう・古刹の花物語＞（9）

大竹 漠州

東山山麓1、将軍塚

「将軍塚」は、今まででは知る人ぞ知る密かな処でした。春には桜を、夏のお盆には五山の送り火を、秋には紅葉が楽しめる贅沢な洛中の名勝地でした。

しかし昨今、将軍塚に「青龍殿」が落成されて以来、参拝者の数も増えて騒がしい新名所に変わってしまいました。将軍塚は、東山山頂に近い高台にあり眺望がききます。眼下には賀茂川の流れる京都盆地が一望できます。一段と緑が濃く中央の処に見えるのが御所です。

興味深いのは「将軍塚」の由来です。桓武天皇は怨霊の祓肩する魑魅魍魎の平城京から早く遷都をしたいと願いましたが、新京の長岡は反新都派の妨害に会い、]0年経過しても完成しません。

改めて山城の国・葛野の地に遷都することを進言した和氣情麻呂は、桓武天皇から造営大夫に任命され、新都・平安京に遷都しました。更に清麻呂は天皇から進言を受けて、その怨霊を制圧するため、高台に直径約20m・高さ約2.5mの大きな塚を造らせました。この塚の地中深く甲冑で身を固め、鉄の弓矢を持ち、太刀を帯びた高さ2.5m程の和氣情麻呂の征夷大將軍の姿を映した土偶を埋めさせて、平安京を守護させたとの言い伝えが残されています。この塚が「将軍塚」です。

余談です。都が大和に在った頃、病氣平癒に功があつて称徳天皇に寵愛された僧道鏡は、大分宇佐八幡宮の御神託で皇位継承を企てましたが、藤原一族の意を受けた和氣清麻呂は、再び宇佐八幡宮に赴き、新たな宣託を受けて継承を阻止した事で、鹿児島の大隅に左遷されましたが、桓武天道の即位で、罪を赦されています。和氣情麻呂は征夷大將軍として蝦夷征討に実績を挙げて、桓武天皇から篤い信頼を得ていました。

余談の余談です。清麻呂は平安京の造営と共に、高雄山の麓に神護寺の建立を願っていました。生前には実現出来ませんでしたが、子の弘世真綱に引き継がれて実現されました。何故、和氣精麻呂は神護寺の建立に拘ったのか？ 答は平安京の怨霊封じに他なりません。御所は神護寺と延暦寺を線で結ぶと、逆二等辺三角形の頂点に位置しています。延暦寺は大勢力の天台宗の総本山として、神護寺は和氣氏の氏寺として創建されています。和氣清麻

呂は、平安京を造営する段階から、将来は御所に与える可能性がある比叡山延暦寺の影を想定していたのではないでしょうか？

その後に「將軍塚には不思議な出来事が度々起こった事が「源平盛衰記」「太平記」に記されています。御所、天皇家に変事が起る時や、都が災害や災難に見舞われる時には、將軍塚全体からドドーツの地鳴りがわき起り、京雀たちは寄り集まって、不安な様子をして東山連峰の將軍塚の方角に眼を向けて、起る変事を囁いたと言われています。現在でも地鳴りがするかどうかは定かではありません。

「將軍塚」は東山山頂近くに在り、距離的には離れていますが、青蓮院門跡の飛び地に成っています。小径を下って行くと青蓮院門跡にも出ることができます。かつては、この山頂に青蓮院門院が建立されていたとも言われます。後に現在の栗田口に門跡として移されました。何れにしても歴史があり由緒のある寺院です。

「青龍殿」は四方の方角を守護する四神の一つ青龍を祀るお堂です。平成26年10月に落成しました。旅人夫婦が、京都に訪れる一日前です。堂宇は外陣・内陣・大舞台と付随する庭園から構成されています。堂宇の基本的な建物部は、大正天皇の即位を記念して、北野天満宮前に建築された総檜造りの「大日本武徳会京都支部道場」を移築しています。新築部分として青龍殿は、約1000人の収容可能な外陣と、護摩を焚いて祈祷する内陣、国宝「青不動明王」を安置する奥殿。そして外に張り出す大舞台から成り立っています。大舞台は、木造造りで清水寺の舞台の4・6倍の広さを持っています。

「青龍殿」の青不動明王は、三大不動明王の一つです。他の二つは大津三井寺の木不動明王と高野山明王院の赤不動明王です。不動明王は動かない尊者を意味しています。不動明王は仏の位で、如来、菩薩に次いで三番目ですが、最初は大日如来の使者として登場します。

余談です。「大日如来」とは宇宙と一体と考えられる汎神論的な密教の教主です。やがて大日如来が教化し難い衆生(しゆうせい・多くの人々)を救うために、忿怒の姿に変えて使わした天部です。普通の形状は、一面二臂(顔一つ腕二つの仏)で、右手に降魔(こうま・悪魔の折伏)の剣を、左手に羈索(けんざく・一端に金剛杵の半形をつけ、他端に鎧つけた青・黄・赤・白・黒の五色線を撫った索条)を持っています。仏像の形式は、衿羯羅童子と制咤迦童子を脇侍にしています。不動明王の背面には、暗闇の中で燃え盛る火炎の中には、三毒(善根を毒する三種の煩惱を指します。即ち食欲・瞋恚・愚痴です。三毒の反対は三善根)

こうした不動明王の個々の特徴は、9世紀に天台宗の安然が著した「不動明王の十九觀」に基づいて描かれました。不動明王は「不動尊」とも「無動尊」とも呼ばれています。「青龍殿」の国宝青不動明王は、元々は国家の安定や皇室の安寧を願って描かれ、朝廷内で祀られていました。平安期末に、門跡寺院として皇室と所縁の深かった青蓮院に下賜されました。

青龍殿庭園は將軍塚を中心にして回游式庭園に枯山水を取り組み、庭園様式が最も盛んになった室町期の作庭に習っています。回遊して行くと、巧みな石組の間に小川を設え、季節で色彩の変化に富む樹木の植え込と草花が目を楽しませてくれます。途中にある東屋からの將軍塚 西山の借景は庭園に

一興を添えてくれます。

(つづく)

奈良興福寺文化講座 28年10月20日(木曜日)

午後5時半～6時半：第一講

講演：「御照覧を仰ぐ一慈恩会の紹介」

講師：興福寺僧侶 Saile 曜映

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話・「奈良・祈り・心」 興福寺 貫首 多川俊映

会場：(学) 文化学園 文化服装学院内

受講料：500円 先着200名

(JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線
新宿駅3分)

第75回 新三木会講演会のご案内

1. 日時・会場 10月20日(木)13:00～15:00 如水会館スターホール

2. 演題・講師 『沖縄の米軍基地と歴史認識』

橋本 宏氏 元オーストリア、沖縄担当特命全権大使

3. 申込・会費 E-Mail：shinsanmokukai@gmail.com

TEL：047-464-4063 (留守電有)

フルネーム・卒年・所属(例:一般・紹介者)

会費:2000円 婦人1000円 学生無料

4. ホームページ <http://jfn.josuikai.net/circle/shinsanmokukai/>

5. 予告 11/17, 第76回 小平龍四郎氏 日本経済新聞社論説委員

『EU離脱後の英国とユーロの行方』

12/15, 第77回 ケント・ギルバート氏 加州弁護士 著述家

『日本人の国民性を考える』

1/19, 第78回 佐藤勝彦氏 宇宙物理学者 東京大学名誉教授

『宇宙は無から生じた』

新三木会代表幹事 則松久夫

すどう美術館

〒250-0853

神奈川県小田原市堀之内 110-2 ベルデュール 103

◆電話、メールは変わりありません◆

Tel 0465-36-0740 Fax 0465-36-0739

メール info@sudoh-art.com

ホームページ <http://www.sudoh-art.com>

すどう美術館 コレクション パート 2

会期 10月7日（金）～12月26日（月）

開館時間 10：00～17：00 火曜定休

入館料 500円（小学生以下無料：保護者同伴）

会場 箱根芸術空間 風伯

〒250-0311

足柄下郡箱根町湯本 540-4

Tel 0460-85-7440

* 講演会 10月22日（土）午後2時 「豊かに生きる—美術との出会いー」
すどう美術館 館長 須藤一郎

事務局

<事務所までの道のり>

場所：〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号
(電話・FAX 番号：03-3837-0290)

御徒町界隈では、JR山手線・京浜東北線と昭和通りが南北に並行して走っています。

- ① JR御徒町駅北口を出てすぐ右に折れて、2ブロック直進すると、昭和通りに出ます。右に多慶屋の紫色のビルを見てさらに8ブロックほど直進すると、
- ② 都営大江戸線の新御徒町駅のA2入口が右側にあります。やや進むと（都営大江戸線の新御徒町駅A2入口を出た場合は右に回ると）、佐竹商店街のアーケードがあります。右折してアーケードを7ブロックほど直進すると、佐竹商店街の出口に到達します。そこを右に曲がってしばらく行くと、左側に薄青いビルがあります。（1階は焼肉屋「もとやま」。）そのビルの2階です。

<投稿歓迎><図書の推薦依頼>

<プリント版・郵送>

メール版（無料）を月に一回編集してプリント版を発行郵送しています。お申込みくださいと送ります。その際には、実費として1月350円（4200円/年）をいただいておりますのでご了承ください。

<振込先> 振込先：三井住友銀行「神田支店」（普通）7871532
(口座名) テンチシニアネットワーク

<配信・郵送、不要の場合はご一報ください、中止いたします。>

天地シニアネットワーク・テーブル・434号

発行：2016年10月14日

: 天地シニアネットワーク事務局 (津田 孎人)

〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号室

TEL・FAX 03-3837-0290

E-Mail tenti@mvc.biglobe.ne.jp

URL <http://www5a.biglobe.ne/~tenti/>